



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●インフルエンザが注意報レベルになりました!!●

熊本市の第50週（12月9日～12月15日）の定点医療機関あたりの患者報告数が、20.20人（定点数25ヶ所、患者報告数505人）となり、国の注意報レベルの目安としている10人を超えました。先週から急激に増えているため、今後とも急増することが予想されます。引き続き感染予防に努めましょう。

### ◆インフルエンザの症状について

典型的なインフルエンザの症状は、インフルエンザウイルスに感染してから1～3日ほどで、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然あらわれた後、咳、鼻水などの上気道炎症状があらわれ、約1週間ほどで軽快します。

### ◆予防法は？

- 1) 流行前にワクチンを接種しましょう。
- 2) 飛沫感染対策としての咳エチケットを心掛けましょう。

・患者の咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）を吸い込むことによる飛沫感染が主です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。普段から皆が咳エチケットを心がけ、咳やくしゃみを他の人に向けて発しないように気をつけましょう。

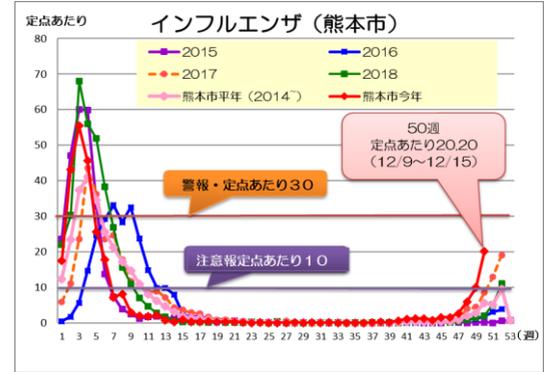
・咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。とっさの咳やくしゃみの際にマスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他の人に向けないようにしましょう。

・ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。特に感染者がマスク等飛沫感染対策を行う事が重要です。

・学校保健安全法における取り扱いでは、原則として、発症したあと5日経過し、かつ解熱したあと2日（幼児は3日）を経過するまで出席停止とされています。（ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではありません。）

- 3) 適度な湿度の保持や外出後の手洗い等しましょう。

- 4) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心掛けましょう。人混みや繁華街への外出を控えましょう。



期 間		2019年 49週		2019年 50週	
		12/2～12/8		12/9～12/15（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ <b>注意報レベル!!</b>	↑	249	9.96	505	20.20
RSウイルス感染症	→	1	0.06	0	0.00
咽頭結膜熱（プール熱）	→	15	0.94	20	1.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	27	1.69	34	2.13
感染性胃腸炎 ⚠	→	202	12.63	194	12.13
水痘（みずぼうそう）	↑	4	0.25	10	0.63
手足口病	→	22	1.38	21	1.31
伝染性紅斑（りんご病） <b>警報レベル</b>	→	36	2.25	43	2.69
突発性発しん	→	5	0.31	5	0.31
ヘルパンギーナ	→	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）	↑	8	1.60	17	3.40
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	→	2	0.40	2	0.40
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	→	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	→	0	0.00	0	0.00